

会 議 録

内 容：平成 26 年度軽井沢町ランドデザイン像作成に伴う会議（第 10 回/全 20 回）

場 所：軽井沢町役場 第 1・2 会議室

日 時：平成 26 年 8 月 11 日（月）13 時 30 分～16 時 30 分

出席者：軽井沢町（藤巻町長、企画課（横島参与、依田課長、森室長、遠藤、春原）

教育長、総務課長、財政課長、観光経済課長、生環課長、建設課長）

中村委員長、二井先生、udc(護、小野寺、辻), 小野寺事務所(上條), アトリエ T-plus(南)

①「軽井沢 100 年未来デザイン像」イマイ氏との協議について小野寺氏より説明があり、確認を行った。結果下記。

◆スケジュールの確認について

・イマイ氏 来軽→ 8 月 28 日～30 日 決定

当日スケジュール（案）

◎28 日(木)

13 時 30 分に軽井沢駅到着 その後、軽井沢を見学

◎29 日(金)

①午前：11 時 → 軽井沢町と面会（中村先生、藤巻町長、企画課、小野寺氏）

③午後：13 時 → 第 21 回未来構想会議の開催

※イマイ氏は軽井沢町を見学

◎30 日(土)

13 時 42 分に軽井沢駅出発 午前中まで軽井沢を見学

◆契約について

・イマイ氏の滞在日程は 9 月～10 月を予定。賃貸契約については 9 月 1 日から結んで頂いている。詳細日程については、8 月下旬に軽井沢を訪問した際に確定する予定である。（小野寺）

◆図版について

・キャッチコピーを絵にいれるかどうか、現段階では決定しない方向となっているが、入れられない場合も考慮して方向性は決定しておいた方が良いのでは。（中村委員長）

→現段階では入れない方向でイマイ氏と協議している。（小野寺）

・これまで何度も添削されて出来上がったキャッチコピーは磨きがかかっている。このキャッチコピーを絵に入れたいのは惜しい。画家的として余計なものを入れたくはない考え方はあると思うが、入れてでも絵として成立させる考え方もあるのではないかと。イマイ氏の独自の意思のみで決定するのではなく、議論の上で決めたい。

そのためには、中村先生の深い思想を理解して頂き、絵に反映して頂く事が重要となる。

29 日の 1 時間では短いのでは。風景に対する交わりが大きい程良いという意味では現地視察も重要だが、同時に思想に対する深い同感が必要と考える。絵を描き始める前に対話が必要である。（横島参与）

- 8 月末には冊子と解説版が大よそ完成してくる段階である。それを見て頂く事で思想を理解して頂く事も可能である。(中村委員長)
- ・吉田初三郎氏は地名等については絵の中に入れており、このスタイルは踏襲しようとしている。初三郎氏の時代とは状況が変わってきているので、資料 7 として新たに絵に入れるべき地名をリストアップしている。内容については町に確認頂きたい。(小野寺)
 - ・富良野にてイマイ氏と協議した際には、キャッチコピーの内容(大きさ、数)が未確定で不明瞭であったため、入れない方向となった。キャッチコピーを載せたくないと言っている訳ではない。(小野寺)
 - ・地名の取捨選択とキャッチコピーを入れるかどうかは相関関係にある。地名とキャッチコピーのどちらか重要な要素なのか検討をした方が良い。地名の有無については地元の目線から確認する必要がある。(横島参与)
- 地名を入れる吉田初三郎氏の絵は、地図としての役割も果たす。町の説明としても明瞭で分かり易い。(小野寺)
- ・地名を確認、選別するだけでも、大変な作業である。これまで議論に出てきた地名のみを記載する事も考えられる。地名数を半分にする代わりに、キャッチコピーを入れられないか。(横島参与)
- キャッチコピーを入れても絵画的にまとまるのであれば、イマイさんはやぶさかではないと思う。(小野寺)
- ・資料 6 の様に絵の中に入れると地名がかなり多いと感じる。絵がぼけてしまう。(二井先生)
 - ・必要に応じて使いわけてはどうか。文字が無いパターン、地名のみのパターン、キャッチコピーを入れてパターン等(中村委員長)
- 地名を入れ込む事で一つの絵となるが、絵を使用する大きさも様々である。使いわけるのであれば、文字情報はデジタル加工の方が良い。地名数もサイズによって絞る等の選別が可能である。(小野寺)
- 文字情報はデジタル加工で良い。イマイさんにも絵に集中してもらう事ができる。(中村委員長)
- サイズや表現の仕方で入れ込む内容は変わってくる。文字情報は絵とは別で良い。(藤巻町長)
- もともとは 100 年先の「100 年未来デザイン像」を町民に分かり易く伝えるために「絵」で表現する事が原点であった。これまで議論してきた内容や意味をイマイさんがどう理解し、具体的なイメージされるかが重要となる。そのためには絵に専念してもらう事は大事である。しかし、絵に専念して頂く以上、文字情報がなくても絵のみで表現できるか不安である。(横島参与)
- 今回の絵は、普通の風景画ではない。コンセプトに沿ってもらう必要がある。しかし、これまでの話をお聴きして、基本的な思想は違うはずはないと考えている。(中村委員長)
- 補助冊子、解説書、1 行コピー(キャッチコピー)にその解説書もある。ブラッシュアップ中ではあるが、コンセプトを理解して頂くためにも、イマイ氏には最新版を事前にお送りし、目を通して頂きたい。(中村委員長)
- ・デジタル加工した絵を町として提示する事について、イマイさんは問題ないか。(依田課

長)

- 問題ない。デジタル加工した絵については事前に確認して頂くつもりである。(小野寺)
- イマイさんに描いて頂いた絵の使用方法については、しっかり協議した方が良い。(二井先生)
- 使い方については協議済みである。軽井沢町が絵を買い取る方式とし、絵の活用等はこちらの判断で問題ない条件となっている。(小野寺)
- どの地名を入れるか等については、別途検討が必要である。(横島参与)

②エリアデザインについて小野寺氏より説明があり、議論を行った。結果下記。

◆エリアデザインのスケッチ・模型写真・内容の整理について(資料4)

- ・旧軽井沢の街並み・建築については、どこで表現するのか。(中村委員長)
- 資料4(1頁)旧軽井沢①の銀座通りのイメージを、軽井沢モダンの街並みとして書き直す予定である。また、オープンカフェ等の様子も入れ、沿道の賑わいを含めて表現する。(小野寺)
- ・観光会館横の街角広場は、へそとなる部分なので、スケッチか何かで表現して欲しい。(中村委員長)
- 資料4(1頁)旧軽井沢②賑わいを創出する聖祝祭プラザのスケッチに追加する。(小野寺)
- ・スケッチ3点のみで地区全ての内容を表現できるのか。人物のパフォーマンスを表現するスケッチは描けないか。(中村委員長)
- 表現できる範囲でスケッチに入れ込む。(例えば旧軽井沢①のイメージスケッチには表現可能)スケッチに表現できないパフォーマンス等があれば、イメージ写真等で表現する等は可能である。その他、模型写真を入れる事も考えられる。地区毎に提示するイメージの表現方法については今後検討したい。(小野寺)
- ・エリアデザイン像の最終成果レイアウトのイメージはあるのか。文字等は入るのか。(中村委員長)
- 大よそ、概要冊子と同じ内容を考えている。概要冊子の様に文字を入れ込むかどうかは要検討。今後、協議しながら詰めていきたい。(小野寺)
- ⇒軽井沢の未来像なので、人物のパフォーマンスを入れる等をして、強調した表現を意識して欲しい。現状では静かすぎる感じがする。(中村委員長)
- ⇒スケッチについては、順次で良いのでなるべく早めに提示して協議する方向で進めたい。(中村委員長)

◆エリアデザインについて

【新軽井沢】 → 修正内容の確認

1. 芸術遊創プラザ周辺(矢ヶ崎公園) + 2. 駅東口から大賀ホール + 3. 国道133号(表通り)

・前回会議にて「デザインミュージアム」に関しては、外す方向だと理解していたが。(依田課長)

→建物はそのままが良いが、デザインミュージアムの名前は外して欲しい。(中村委員長)

- ・新軽井沢の提案は、発表した際に町民の反応が大きい地区となる。冊子やパネルには平面図を入れる事はないが、実現提案書（報告書）には入れる事になっている。公開物となるため、見る方はいる。（中村委員長）
- 地権者の反応はあると思うが、すっきりとまとまっている印象がある。50～100年先に商売をしているかどうかは分からないが、更に良い環境で良い商売ができる状況を作っていくためのものと説明する事は可能と考える。（藤巻町長）
- ・まちづくり基本条例の中でも、まちづくりは行政だけでなく、住民も事業者も含めて検討を行う事となっている。みんなで協力しながら創りあげていくものとして説明できる。理論としては合っていると考える。（依田課長）
- ・今まで「駅から始まる街構成」という概念が無さ過ぎた。発展の拠点である駅から大賀ホールまでの空間は、文化の沸騰が起きている。沸騰している文化とまちづくりの思想をマッチングさせる事によって、軽井沢の表玄関としての様相が展開する。この様な位置づけについては「解説書」にも記載している。より詳しい内容については報告書に入っており、読み合わせる事によって理解できる仕掛けにはなっている。無駄にはなっていない。（横島参与）
- ・2016年サミットの誘致に向けて軽井沢町も取り組んでいる。その延長線上で会議都市として、会議ができる場を示したい。（藤巻町長）
- 場所を検討するにあたって、何人規模の会議施設が必要なのかを具体的に示して欲しい。（依田課長）
- 会議都市推進協議会で出てきている規模は、軽井沢町で最大300人程度のリゾート会議を誘致していく方向である。（藤巻町長）
- ・サミットの会場は駅の南側をイメージしていた。（中村委員長）
- サミットはプリンスホテルが中心となる。会議都市を目指す一つの大きな手段として、「サミット」を誘致しようとしている。ずっと民間ホテルのみをあてにする事は出来ない。小規模でも良いので、ある程度公の施設として用意していきたい。（藤巻町長）
- ・大賀ホールでは狭いか。（中村委員長）
- 大賀ホールのメインは音楽であるため、会議で場所をとられる事は好ましくない。会議場を設置する場所は新軽井沢が良い。プリンホテル、万平ホテル、大賀ホール等の施設も充実しており、使いあうには良い場所である。施設は独立した施設でなくても良く、場所は「管理棟カフェ」あたりが望ましいと考えている。（藤巻町長）
- もう少し施設を大きくし、施設内に会議場としての機能を入れ込む事も考えられる。「管理棟カフェ」という名前でも良い。（中村委員長）
- 「公共ホール」の様に、どんな使用でも可能なイメージが良いのでは。（横島参与）
- 公園内にある新施設（紫着色施設）については機能が未定であるが、様々な解釈ができる様になっていると説明がしやすい。（藤巻町長）
- 「管理棟」という名前であるが、実際は新軽井沢の公民館である。（依田課長）
- 施設配置や形態は、もう少し水辺との関係を楽しくした表現としたい。（中村委員長）
- ・池の形状は、理想的になったのか。（横島参与）
- この案であれば実現可能である。浅瀬を作り動線を確保した、水面を豊かに活用しつつ、規模的にもほぼ良い感じである。現実的にも良いバランスとなった。（小野寺）

→有機的な感じで良い。(藤巻町長)

→浅瀬をつくる案は課長から頂いた。非常に良い案である。カスケードにする事で水質が良くなり人も入れる空間となる。最終的には造園的なニュアンスを加える事で良い空間となる。

・最終的な形状や配置等については、再検討して欲しい。(中村委員長)

【旧軽井沢】

1. 聖祝祭プラザ+ 3. 旧軽銀座の街並み+ 3. 別荘保存の決意表明図

■スケッチ、パース等について

・スケッチについては町との協議が必要である。(依田課長)

→どこまで表現するかの問題がある。最終のエリアデザイン像に平面図は提示しないので、触れなくておく事も考えられる。技術論として報告書に提示する事はもちろん行うが、それで構わないか。(中村委員長)

→内部資料として報告書内のみの提示でも構わない。「公民館」という名前ではない新しい提案を検討して欲しい。(依田課長)

→名称は重要である。(サナトリウム等)

この場でなくても良いので、気になった点は事務局まで連絡お願いしたい。(全地区)

(現在ある建物の表記の有無(重要な建物、モニュメントが抜けてないか)、新規建物の名称が良いか悪いか、その他の新しい提案、等)

【南軽井沢/南地区】

1. ユウスゲオーラム(風の庭)+ 2. 発地市庭、植物園(山の庭) 3. 里山博覧エコミュージアム

・サッカー場の観客席はあった方が良いが、柵(ネット)の外になっている。(依田課長)

→観客席があった方が良いのであれば、もう少し台数を増やしても良いのでは。(中村委員長)

→【了承】観客席数を増加させて配置する。

・駐車場の総合的なキャパは問題ないと思うが、配置が偏っている。アイスパークの駐車場が半分になっている事が気になる。満車になった場合、路上駐車になる可能性が高い。(森室長)

・資料に記載されている計画案の駐車可能台数は、計画案(第1~第3駐車場)を含めた数字(500台)として欲しい。(依田課長)

→ユウスゲ湿地帯は再生したい思いがあるが、現状の湿地帯範囲でデッキ等を入れる事が出来れば良い。(中村委員長)

→未来像なので駐車場台数に拘らなくても良いのでは。(藤巻町長)

→スポーツ施設と駐車場は縁切りできないため一体で検討する必要があると思っている。(小野寺)

→スポーツ施設が沢山あるだけでは軽井沢の風格は出ない。軽井沢らしさを出すために、大

胆に緑地をとり入れながら機能配置を検討する提案を行っている。なるべく現案の様に湿地範囲を広げる方向としたい。最終判断は町で検討して欲しい。（中村委員長）

【中軽井沢】

1. 街区と水路＋2. 湯川＋長倉公園＋3. 国道146号（表通り）

・駅前広場の再整備では、東西の自動車通行が不可能な事が懸念である。県の方では用地交渉が進んでいない状況であるため、現案では事業がとん挫する可能性が高い。（依田課長）

・現実的に一番問題は、駐車場が分離されている事である。図書館の駐車場（西側）は満車になる事が多々あるが、満車の場合は東側の有料駐車場を利用して頂く事になる。横断ができないと不便である事は間違いない。（藤巻町長）

・50年後の未来像だが不便さは解消する必要がある。利便性は考慮して欲しい。建物をセットバックし歩道を拡げる提案は良い。（依田課長）

→駅前歩行者空間としたい。どこにでもある駅前広場とまらない様な工夫を検討して欲しい。（中村委員長）

→車道としてではなく、通路（歩道に乗り入れる形）として車通行を確保する事も可能である。

→【了承】通路としての対応を進める。

【追分】

1. 街道の街並み＋2. 分去れ＋3. クリエーターズ・コロニー

・堀辰雄文学記念館の駐車場あたりは高低差がかなりあるが大丈夫か。（依田課長）

→10m程度の高低差がある。高低差については十分検討したい。（小野寺）

・街道の北側敷地裏に通っている水路は活用できないか。（中村委員長）

→小諸市の所有であるため、活用は難しい。なお、水路は改修されたばかりである。（依田課長）

・追分地区は公費をつぎ込んで公共整備を行った。今度は地元頑張ってもらいたい地区である。それをバックアップ（補助金をつけて応援する等）する方向としたい。街道沿いの景観については、必ずスケッチに描いて頂きたい。（依田課長）

→資料5（2頁）の追分地区の軽井沢モダンとして提示した様な建物にならって街並みを描く予定である。最近できた新しい店舗等は追分地区の雰囲気踏襲している。（小野寺）

・追分は生垣が並ぶイメージではない。板塀が現実的と考える。（依田課長）

・芸術家コロニーは、どの様な機能が入るのか。（春原氏）

→芸術家が集まる仕組みが出来ればと考えているが、具体的な提案は検討段階で止まっている。（中村委員長）

・芸術家村が三ツ石にあったが、別荘になってしまった。（依田課長）

・現在では芸術家のアトリエや宿泊機能については「油屋」が担っている。（藤巻町長）

→「油屋」を応援する様な整備が現実的かもしれない。油屋を中心に知的交流する場を設ける方向で進めたい。（中村委員長）

・コロニーが大規模な言葉であるため、「芸術家コロニー」は大げさすぎる感じがする。
(森山委員)

→絵として表現する事は難しい事であるため、上手く表現できる「言葉」を検討したい。
(中村委員長)

・オープンガーデンが可能であれば、スツールの様なベンチを設置してはどうか。追分地区のサインにもなる。(森山委員)

→ポケットパークを整備し、ベンチ等も設置している。しかし観光協会が運営をやめてしまっているため機能していない。(町)

→やはり地元発意のオープンガーデンとした方が良い。(小野寺)

・建築物だけでは街並みがまとまらない。独立樹は存在感が出て、風景にもなる。移植等も検討して欲しい。(中村委員長)

→追分地区は大々的に改変する計画ではなく、再整理する方向で検討して頂きたい。(藤巻町長)

・軽井沢駅前にある6本のケヤキは、樹齢90年であり、移植でようやく根付いた代物である。駅前周辺は、昔「谷津」であったため地下水が高い。樹木が根腐れしないように1m程盛土した上に移植する等の工夫がされている。樹木の移植等については場所性を考慮して慎重に行う必要がある。また、駅前のケヤキはかなり成長しているため高くなっている。緑と建物の関係性についても一考して頂きたい。(町)

○次回の協議について

・次回会議は、平成26年8月11日(月)とする。

・議題は

1) 100年未来デザイン

①イメージ図の検討

2) エリアデザインの仕様

①各地区仕様(全体図に描きこむ事物・施設、例示場所(再確認含む))

②例示場所イメージ図

2) グランドデザイン像冊子

①構成について

3) 工程表(作業項目と日程)

4) 会議開催予定日程

○配布資料

1. 次第

2. 前回議事要旨(資料1)

3. 自転車・LRTネットワーク図(資料2)

4. エリアデザイン5地区(資料3)

5. エリアデザインのスケッチ用模型写真・内容の整理(資料4)

6. 中軽井沢・西軽井沢モダンについて(資料5)

7. 軽井沢グランドデザイン像冊子（案）の構成について（資料6）
 8. 平成26年度軽井沢町グランドデザイン像作成工程表（資料7）
- ※ 地区模型

以上